

注意報

4 病 第 2 1 号
令和 4 年 7 月 2 7 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 3 号

作物名 水稻
病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 府内全域
2 加害時期 出穂後収穫期まで
3 発生量 平年比多い
4 防除時期 穂揃期及び傾穂期
5 注意報発令の根拠

(1) 7月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、府内全域の確認ほ場率は20.0%で平年比やや多く、平均虫数は0.9頭で平年比多い(表1)。
主要な発生種は、クモヘリカメムシ(写真1)、ホソハリカメムシであった。

表1 斑点米カメムシ類調査結果(7月第3~4半旬:本田20回振りすくい取り調査)

Table with 11 columns: Area (山城, 南丹, 中丹, 丹後, 京都府), Confirmation Rate, and Average Number of Insects. Rows include R4 year, average, and historical data from R3 to H24.

* 虫数は、1ほ場当たりの平均値。

(2) 7月中旬に行った畦畔のすくい取り調査の結果、府内全域の確認ほ場率は40.0%で平年比やや少なく、平均虫数は9.0頭で平年並。

主要な発生種は、アカスジカスミカメ(写真2)、アカヒゲホソミドリカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシであるが、中でもアカスジカスミカメが多く捕獲された。

(3) アカスジカスミカメの予察灯(60W)への誘殺数(6月第1半旬~7月第3半旬の合計)は、京田辺市で28頭(平年3.5頭)、亀岡市で145頭(平年:47.4頭)で平年比多く、京丹後市で122頭(平年:97.2頭)で平年比やや多い。

- (4) アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯(60W)への誘殺数(同上)は、亀岡市で99頭(平年:20.7頭)で平年比多く、京田辺市で5頭(平年:23.9頭)、京丹後市で12頭(平年:61.4)で平年比少ない。
- (5) クモヘリカメムシの予察灯(60W)への誘殺数(同上)は、亀岡市で4頭(平年:0.3頭)、京丹後市で8頭(平年:0.4頭)と平年比多い。



写真1 クモヘリカメムシ成虫



写真2 アカスジカスミカメ成虫

6 防除上の留意事項

(1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、畦畔の草刈りを行うことが有効である。草刈りは、イネが出穂する2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的である。作業の都合上、1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる。

出穂期に近づきすぎたから行うと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。

水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。

農薬の散布にあたっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。また農薬の選択にあたっては、使用基準を遵守して適正に使用する。特に、特別栽培米に取り組んでおられる方は、普及センター、JA等と相談してください。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。